

破顔一笑  
互に祝福  
す

清領を辭  
して英領  
に入る

人力不可  
抗の一現  
象

顧み、破顔一笑、互に祝福す。爾後谷に沿ふて東南に向ひ雪を蹴り氷を踏み六時二十分チヨジャンチルガに到着せり。行程約十一里。此日嶺北に一泊の豫定なりしも、天候好良なりし爲め、嶺南に達するを得たり。

回顧すれば、昨年十月十三日、北京出發以來、始終清國の地に客遊するもの一箇年、或は天山の南北路を過ぎ、或は戈壁地帯を夜行し、險を踏み危に臨み、纏頭、蒙古と親み、哈薩克等と交りて、復た得べからざるの趣味感興を興へられ、今や清領を辭して正に英領に入る。前途尙ほセシル嶺、カルドン嶺の氷河通過及ヒマラヤ山脈の跋涉せざるべからざるもの有りと雖も、是に至つて予が目的は既に十中の九を遂行せり、由來頑健を以て自任せし予も、人力不可抗の一現象たる、空氣稀薄の爲め、予をして暫く大病人の如くならしめたり。されど是れ一時の現象に過ぎず。身體は依然鐵の如く石の如し。此の夕人馬共に少しも食を取らず。敢て警戒するに非ざるも、食慾皆無なるに因る。敢て飲食せずと雖も、毫も飢渴を覺えざるは、蓋し空氣の作用ならんが亦以て奇と爲すべし。

一三 デブサン 嶺の超過、水絶えて氷を煮る